



東京赤坂ロータリークラブ

NO. 1195 / 2012. 8. 31

例 会/ANA インターコンチネンタルホテル東京

Tel 03-3505-1111

事務局/〒107-0052 東京都港区赤坂 2-19-8

赤坂 2 丁目アネックス 3F

Tel 03-3505-5976

Fax 03-3505-6004

http://www.akasakarotary.com/

東京赤坂ロータリークラブ週報 Weekly Report

2012~2013 年度クラブテーマ
会長 尾関 武男

「僅かなことにも手を差し伸べよう、そして信頼と絆」
Give a hand to even to the small things. Build trust and bonds.

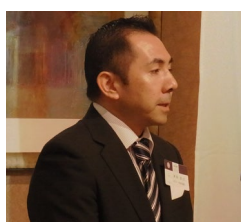
●本日の例会/ 2012 年 8 月 31 日 第 1222 回

卓話：「バイクで5大陸・64 カ国を 15 ヶ月で
周って見えた世界の事実」
ティーアールピージャパン株式会社
代表取締役 山田 達也 氏

●前回報告/2012 年 8 月 13 日 第 1221 回例会

卓話：「プライベートバンキングとは」
オリックス銀行株式会社

真保 雅人 氏
津田 成之 氏
塚本 芳彦 氏



幹事報告：

- (1) ロータリー・リーダーシップ・インスティテュート (RLI) へは、尾上会員が参加して下さることになりました。
- (2) ロースター (名簿) 記載事項の確認をお願いしたく、ボックスへ資料をお配りいたしました。ご確認のほどよろしくお願い申し上げます。

社会奉仕委員会：(橋本委員長)

- (1) インターシップの協力依頼について
12 月 11 日・12 日実施のインターシップについては各会員会社様は事務局に申し込み願います、まとめて芝商業高校に提出いたします。取り急ぎ宜しくお願い致します。
- (2) 10 月実施の港区民祭りにフリーマーケットの企画を検討致しましたがブースの都合で出来ません、代わりの企画を検討いたしますので改めて報告致します。

25 周年記念実行委員会：(橋本副委員長)

25 周年記念誌発行が遅れておりますが、不足原稿も整備されました。あとはゲラの校正が残っておりますが、9 月末発刊に向けて努力致しますので宜しくお願い致します。



ソングリーダー：
入沢会員

来客紹介：
尾上会員



ニコニコ担当：
小林会員



8 月 24 日(金) / 12 件 62,000 円

累計219,000 円

多額の寄付を有難うございました。

東京麻布 RC 会長 加藤千博、幹事 水野勝広/麻布より参りました！今年度も子クラブをよろしくお願ひいたします。尾関武男/先日、当社の周年行事が無事終わりました。RCの方々からも有志の方がお顔を見せて頂きありがとうございました。本日感謝を込めてわずかですがニコニコさせていただきます。石井謙次/本日の卓話津田様、真保様、塚本さま宜しくお願ひします。尾関会長、先日はおめでとうございました。小原健/荒木さん、やすらかに。尾関さん100周年記念事業にも招待してください。入沢頼二/小林さん、荒木さんを偲ぶに相応しい立派な告別式でした。尾関さん創業80周年おめでとうございました。ますますのご発展を祈念します。村山公士/本日は所要で途中退席させていただきます。申し訳ありません。清水實/近々私どものオペレッタ協会で2つの公演があります。一つは9月1日草月会館で、リヒャルト・シュトラウスの曲に作詞したミュージカル・コミック、一つは10月5日にオペラ・オペレッタ・ミュージカルを歌うガラ・コンサートです。受付にチラシを置いています。橋本年男/小林さんニコニコ御苦勞様です。荒木さんのお別れ会、お疲れ様でした。尾関会長、会社創立80周年おめでとうございました。素晴らしく品格あふれるパーティーでした。特にパネルディスカッションは大変勉強になりました。田村昭二/夏も終盤ですが、まだ暑いので体調には十分気をつけましょう。西澤民夫/小林さん、今日も御苦勞様です。そろそろ朝晩秋の気配が感じられますね。土屋東一/小林さんニコニコ御苦勞様です。小林博茂/当クラブ前会長の荒木昭文さんのお別れ会にクラブからお花をいただき、又、多数ご参列賜り有難うございました。関係者として、この場を借りまして御礼申し上げます。

出席報告：会員 40 名/出席 21 名・欠席 19 名

ゲスト：真保雅人(卓話)、津田成之(卓話)、塚本芳彦(卓話)、西田一隆

ビジター：加藤千博(東京麻布 RC)、水野勝広(東京麻布 RC) 計 6 名(敬称略)

寄付総額の上位クラブ

会員一人当たりの年次基金への寄付額が上位 50 内のクラブ、各ゾーンで寄付総額が最も多かったクラブ、年次基金に全クラブが寄付し、会員一人当たりの寄付額が 100 米ドル以上の地区を紹介した 2011-12 年度寄付総額の上位クラブと地区のリストが発表されました。

「毎年あなたも 100 ドルを」の取り組みを通じた年次基金への寄付は、平和の推進、疾病との闘い、清潔な水の提供、母子の健康と教育の支援、経済の発展など、ロータリーのさまざまな活動に生かされています。ホノルル・サンセット・ロータリー・クラブ（米国ハワイ州）は、50 位内には入らなかったものの、会員全員が寄付をし、1 人当たりの平均寄付額は 946 ドルでした。このクラブの年次基金委員長であるリチャード・ゼガーさんは、この達成について次のように話します。「会員全員に寄付をお願いしたことが、当クラブの成功につながりました」

年次基金へのご寄付に感謝申し上げますとともに、寄付総額上位 50 に入ったクラブと地区の皆さまに心からお祝い申し上げます。

（国際ロータリー・ニュース：2012 年 7 月 31 日 より）

2011-12 年度寄付総額トップ・クラブおよび地区

国際ロータリーのロータリー財団



2011-12 年度、以下のクラブおよび地区から、格別なご支援をいただきました。
ロータリー財団より謹んで感謝申し上げます。

各ゾーンにおいて寄付総額が最も多かったクラブ

ゾーン	クラブ名	地区	国/地域	寄付総額
1	八潮	2770	日本	\$161,558.56
2	横須賀	2780	日本	\$97,676.91
3	福山	2710	日本	\$242,770.02
4	Bombay North	3140	インド	\$679,855.18
5	Alleppey	3211	インド	\$107,054.56
6	Calcutta Metropolitan	3291	インド	\$112,744.52
7	Pasig	3800	フィリピン	\$197,560.00
8	Cleveland	9630	オーストラリア	\$317,598.41
9	Seoul Namsan	3650	韓国	\$238,500.03
10	Taipei Castle	3480	台湾	\$232,100.00
11	Colombes, Bois Colombes, La Garenne Colombes	1660	フランス	\$40,389.64
12	Seregno-Desio-Carate Brianza	2040	イタリア	\$35,102.92
13	Elst Over-Betuwe	1550	オランダ	\$86,950.34
14	Neunkirchen/Saar	1860	ドイツ	\$126,621.43
15	Mariehamn	1410	オーランド諸島	\$45,495.09
16	København	1470	デンマーク	\$110,963.05
17	Ayr	1230	スコットランド	\$40,893.44
18	Renaix	1620	ベルギー	\$62,721.24
19	Carmel (Haifa)	2490	イスラエル	\$56,485.00
20	Osubi	9140	ナイジェリア	\$259,647.86
21	San Nicolás de los Garza	4130	メキシコ	\$158,194.49
22	São Paulo-Aeroporto	4420	ブラジル	\$189,407.86
23	Chillán-El Libertador	4360	チリ	\$71,033.03
24	Calgary	5360	カナダ	\$677,190.49
25	Foster City	5150	米国	\$221,491.00

最適な組織規模は？

1. イギリスに、ロビン・ダンバーという人類学者・進化生物学者がいます。霊長類を研究対象としていたダンバーは、脳の大きさと集団の大きさとの間には、非常に際立った関係があることを見出しました。

例えば、原始的なキツネザルは、ほとんども独身のまま生活し、雌雄が一体となるのも交尾期だけに限定されています。もう少し進化して大きな脳を持つテナガザルになると、生涯に渡って、一組のペアが夫婦生活を送ります。しかし、ご近所の夫婦が集まることはなく、ラブラブな夫婦生活を誰にも邪魔されることはありません。更に大きな脳を持つゴリラやチンパンジーになると、いよいよ「群れ」と呼ばれる集団を構成し始めます。

このように、脳が大きくなればなるほど群れに集う個体数は大きくなってきます。ダンバーは、様々な霊長類の脳の大きさと、その群れの大きさを比較して、両者の間には直線的な関係が見られることを見出しました。

2. 当然ながら、生物学的には人間も霊長類に属します。だとすると、人間の脳の大きさを測定することで、最適な群れのサイズを計算できることとなります。実際にダンバーが計算したところ、群れの規模としては「約 150 人」という結果が出たのです。

さて、この「150 人」という数字は何を意味するのでしょうか？ダンバーによると、人間にとっての本来の群れの大きさは、150 人前後が適切であるそうなのです。実際、様々な集団で、この法則が成り立っています。一例をあげれば、古今東西の軍隊の多くは 100~200 人をひとつの単位として、組織しています。

ローマ軍の主力部隊だった歩兵中隊は、120~130 人がひとつの単位でした。ローマ軍の歩兵隊長は「百人隊長（ケントゥリオ）」と呼ばれ、軍団において重要な役割を担い、また非戦闘時にも軍団兵の統括を行うなどローマ軍の規律の要になっていました。

近代軍では戦場における直接戦術指揮は中隊長が執っており、中隊（100~200 人）が軍隊の中で最も中心的な単位になっています。そのことを考えると、ダンバーが発見する前から、組織としての適正規模を、軍人は経験的に知っていたようです。

この研究結果は広く知られるようになり、現在では 150 という数字は「ダンバー数」という呼び名を与えられ、社会科学で広く使われており、組織デザインにも取り入れられています。

●次回予告/ 2012 年 9 月 7 日(金) 第 1223 例会

卓話予定：株式会社 離島経済新聞社

編集長 鯨本 あつこ氏